

第38回電波研・通信総研・情通機構親ぼく会 第1部パネルディスカッション 『昭和15年頃から終戦直後の電波経験』

日時：平成22年11月4日（木） 15:00～17:00

場所：独立行政法人 情報通信研究機構 4号館 大会議室

主催：電波研・通信総研・情通機構親ぼく会

パネリスト：石田 亨，大瀬正美，清水富次，村主行康，田尾一彦，長竹 孟，
原田喜久男，村松金也（50音順・敬称略）

司会：飯田尚志

本パネルディスカッションの開催趣意

独立行政法人情報通信研究機構は、逓信省電気試験所（1896年，明治29年），同周波数標準器設定（1927年，昭和2年），同型式検定制度確立（1935年，昭和10年）及び文部省電波物理研究所（1942年，昭和17年）を源流とし，戦前～戦後の周波数標準，型式検定，電離層観測及び電波伝搬予報の業務を行った実績を有しています。これらの電波関連業務には，軍の通信を行っていた方や軍の研究所で研究していた方も多数従事されました。この時代，諸先輩がいかに戦争で苦勞し，尊い命も落とされたかについては「電波研・通信総研の思い出集（通信総合研究所50年記念誌）」（2001年3月）にも書かれています。本パネルディスカッションでは昭和15年頃から昭和20年終戦及びその直後頃まで実際に電波関連の業務・研究に従事または関係された方の生のお話し・エピソードを伺うことによって，太平洋戦争終戦65年を経過した今日生活する者に非常に有益なアドバイス及び今後の研究に有益な情報が得られるものと確信し開催を計画したものです。本パネルディスカッションではパネリストの方のお話しを伺うばかりでなく参加の方からも活発な質疑を期待するものです。

パネルディスカッション次第（司会：飯田尚志）

15:00 開会・開催趣意説明：飯田尚志

15:05 各パネリストからの報告

石田 亨 「日比谷 CIE 図書館日参」

大瀬正美 「電波物理研究所入所：南方要員ということで入所したが，叶わず」

清水富次 「関東軍時代にスポラディック E 層による見通し外通信を受信」

村主行康 「学徒動員のマツダ研究所で電流絶対標準を研究」

田尾一彦 「礼文島での皆既日食観測に参加」

長竹 孟 「近衛連隊印度支那派遣歩兵団自転車隊（銀輪部隊）を経験」

村松金也 「第五陸軍技術研究所長の終戦時の言葉で救われる」

原田喜久男 「戦災たびたび，無線工学への道は遠かった」

16:25 質疑

16:45 各パネリストからの提言

17:00 まとめ・閉会：飯田尚志